



エヴァグリーン・
ドッグ・フィールド
代表 森 一彦



犬が飼い主に挨拶しようとして飛びついたり、飛びついて顔を舐めようとす
る行為を、犬の支配性の現れと受け止めて、飛びつきを止めさせるためにひざ蹴りを加えたり、前足をつねったりする事は、好ましいしつけ
の方法とは言えません。飛びつきを止めさせるためには、先ず「オスワリ」「マテ」を教える必要があります。

どうすれば良いか？、先ず犬を座らせて鼻先にトリーツ(ごほうび)を出します。すると犬はトリーツをとろうとして体を動かします。この瞬間、「いけない」「だめ」等の言葉を発してトリーツを取り上げます。これを2〜3回繰り返すと、大抵の犬は体を動かすとごほうびがもらえないことを理解します。犬がじっとして動かずにトリーツを見ているようになったら、「ブツド」等の言葉をかけ、軽く撫でて、トリーツを与えます。この練習を何度か繰り返すと、「オスワリ・マテ」の行動を強化することが出来る。同時に、「いけない」「だめ」の意味を理解させることも出来ます。しかし、犬は般化すること
が苦手なので、飼い主がちょっと場所を変えただけで、「スワット・マツ」という反応を忘れてしまい、トリーツを

取りに行つて体を動かしてしまいます。犬は飼い主が立つ場所を変えただけで簡単に失敗をしますので、家の内・外、周囲の環境とハンドラーを変えて、トレーニングを繰り返す必要があります。このようにして「オスワリ・マテ」をいつでもどこでも出来るように定着させて、「いけない・だめ」の合図の意味も理解させなくてはなりません。

挨拶の仕方が飼い主にとって好ましいもので無くても、それは犬の責任ではありません。犬が飛びつくのは幼い時の名残であり、成犬の口角を舐めるのは、口を舐められたことが刺激となつて成犬が食べ物や吐き出し、子犬が食べ物にありつけるからです。犬は成長してもこの習性を失わず、自分より高位の者に対しての挨拶として、飼い主の口を舐めに来るのです。そして、飼い主が自分より背が高いために、飛びつくという行為になって表れてしまいます。このような行為を「支配性」や「優位性」の現れと解釈して、強制的に抑え込むよりも、飼い主に対する正しい挨拶の仕方を教えることが必要です。犬に飛びついてはいけないことを教えるためには、飛びつきと両立しない行動を定着するのが一番良い方法です。犬にオスワリ・マテが完璧に定着したら、大きく手を広げ、太ももを叩くなどして、犬に「飛びついていい」と、声と身振り合図をします。犬の前足が地面を離れて飛びつこうとする瞬間に

「いけない・だめ」などの合図をだして、犬を拒絶します。「いけない・だめ」の合図の意味を理解していれば、犬はトリーツをもらえないことに気が付きます。この練習を何度も繰り返すと、犬は飼い主が誘いかけても飛びつく事がなくなり、やがて別の行動(た
いがいの犬はオスワリをする)をとるようになります。この練習で一番難しいのは「いけない」の合図を出すタイミングです。犬の前足が地面を離れる瞬間を捉えなければなりません、地面から1メートルも離れてしまつてはもはや手遅れです。犬がオスワリをしたなら、間髪をいれずに大げさにほめて犬の体をポンポン叩き、トリーツを与える、そしてもう一度最初からやり直す、この繰り返しが大切なのです。この練習に即効性はありません。今回も、ジー
ン・ドナルドソン著の「ザ・カルチャー
クラッシュ」からの要約でした。

たとえここまで出来なくても、犬が飛びついて来たなら、飛びついた前足を持つまま飼主自身がしゃがみ込み、犬にオスワリをさせた上で、犬を撫で、トリーツを与えて褒めてやるのが、飼い主を慕って挨拶をしに来てくれる犬に対する、道徳的あるいは人道的、いや
大道的な飼い主の対応の仕方ではないでしょうか。



遊ぶ 学ぶ かかわり合う...Wan倶楽部
Evergreen Dog Field
ドッグラン・ドッグカフェ・飼い方相談
福島県郡山市熱海町高玉字坂山1-1 磐梯熱海ICから約6分
☎024-994-0811 エヴァグリーン・ドッグ・フィールド 検索
福島県19郡(保健第21号・訓練第5号(有)Evergreen Dog Field
登録年月日H19年4月6日 有効期限の末日H24年4月5日 動物取扱責任者 森一彦